

ビジネススクール教室風景

演習 A：2017 年入学 渡邊 良平

演習 B：2017 年入学 宮崎 良一



—YBSを選んだ理由は

渡邊さん：受講生の人数が少なく、密度の濃い学びの場が得られると思ったことが最も大きな理由です。また、仕事で抱えていた疑問が演習テーマと合致していたということも理由の一つ。

宮崎さん：働きながらも支障が少なく、通学できる学習環境であることが一番大きかったです。少人数での教育環境や日常業務に役立つカリキュラム内容であることも選んだ理由として大きかったです。

—正直言って、入学してよかったですか？

渡邊さん：入学して良かったです。若い頃の勉強と違い、目的意識を持って勉強することが楽しいということを実感しています。家族には負担を掛けていますが、日々感謝と共に過ごしています。

宮崎さん：(もっと早く入学しておけば良かった...と後悔するくらい) 入学して良かったです！

—息抜きの仕方は？

渡邊さん：時間を見つけてジムで筋トレをしたり身体を動かしたりするのが気分転換になっています。ゼミの後に皆でお酒を飲みに行ったりするのも楽しいですね。

宮崎さん：平日二日間と土曜日の授業を受講しており、息抜きができるのは唯一日曜日です。家族と一緒に日曜日を過ごすことが、月曜日からの頑張りに向けた大きな活力になっています。

—勉強に関して

渡邊さん：しばらく勉強から離れていたのが慣れるまで大変でしたが、仕事で経験したことの裏付けを勉強で得ることが出来るので、日々手ごたえを感じる事が出来ています。

宮崎さん：学習内容は専門的かつ高度であるため、正直大変です。毎回、苦労した分の学習成果を感じることが出来るので、継続して学習できています。

—役立つと思いますか？

渡邊さん：学びを得たことでこれまでと違う視点で物事を見ることが出来るようになったことが仕事上でも役に立っていますし、修論に取り組んでいることが将来的に大きな力になってくれると感じています。

宮崎さん：授業を通じて毎回、知識の幅が広がるため日常業務に大いに役立っています。モノの捉え方が(良い意味で)変わって来るので、今後の人生にも役立っているかと思えます・・・。



—クラスの雰囲気はどうですか？

渡邊さん：演習 A のメンバーは 8 名です。ゼミではお互いの研究の進捗を報告し、ディスカッションを行っていますが、お互いにリラックスしながらも良い刺激を与えあっていると思います。

宮崎さん：少人数のクラスであるため、指導教員や同じ課題感や目標を持つクラスメイトと深い議論を行なうことができ、創発的な雰囲気があるクラスだと思います。

—仲間たちは？

渡邊さん：年齢も職種もバックグラウンドも違いますが同じ志を持って入学したということもあり、本音をぶつけることができる仲間です。歳をとってからの友人は貴重だと言いますが、まさにその通りと実感しています。

宮崎さん：職種は様々ですが、同じ社会人、志を持つ方々がクラスメイトなので、苦しい時など大きな支えになっています。また、授業以外にも様々な交流の機会があり、刺激を多く得ています。



横浜国立大学大学院国際社会科学府
経営学専攻（博士課程前期）



Yokohama Business School

横浜ビジネススクール社会人専修コース



第1次
選 抜

学力検査 | 小論文
2018年11月10日 土

入試日程

第2次
選 抜

学力検査 | 口述試験
2018年11月24日 土

お問い合わせは下記までご連絡ください。

横浜国立大学国際社会科学府（社会科学系経営学務係）

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-4

TEL : 045 (339) 3684 MAIL : int.keiei@ynu.ac.jp

グローバル・ビジネスの戦略とコントロール：
その進化と展望

竹内 竜介 & 中村 博之

本演習は、現在そしてこれからのグローバル社会において、企業に求められる「グローバル・ビジネス」のあり方を探究することを目的に掲げています。本演習では、海外事業を営む企業の戦略とその立案から実践までのコントロールを主な焦点として、国際経営論と管理会計という異なる学問領域の叡智を動員しながら、グローバル・ビジネスの進化過程はどのようなものだったのか、グローバル・ビジネスの抱える根源的課題とは何で

あり、現在は特にどのような課題に直面しているのか、そしてそれら課題をどのようにして解決し今後の展望を描くのかといった問いについて、検討していきたいと思えます。この取り組みを通して我々が最終的に目指すことは、より困難の続くであろうグローバル化社会を生き抜き、新たな価値を創造し続けることのできる人材の創出であります。



理念

21世紀の変動し続けるビジネス環境の下で、現代の社会人には、経営に関する高度な専門知識を習得するとともに、専門知識を実際の経営戦略や業務課題に適用するために、これらを有機的に結びつけてさまざまな課題の解決を図ることのできる統合的なマネジメント能力が求められています。横浜ビジネススクールは、本学の建学の理念である「実践性」、「先進性」、「開放性」、「国際性」に基づいて専門知識の深化と統合を追求した、社会人のための高度で実践的な経営専門教育を目指します。

特徴

1. 徹底した
少人数による教育・研究

受講生と教員がハイタッチにコミュニケーションし、学びあひながら、今後の企業や社会等のあり方を考えるための新たな知識を生み出します。各演習テーマの定員は6名とし、少人数でそれぞれの個性が活きる知的インターフェイスを実現します。

2. 就学しやすい環境

平日の夜(18時50分~21時まで)は、工業や交通の中心である大都市横浜を象徴する横浜ランドマークタワーにあるサテライトキャンパス(みなとみらいキャンパス)、土曜日(9時50分~18時まで)は、緑に覆われて設備の充実した常盤台キャンパスを利用することで、社会人に最適な教育・研究環境を提供します。

5. 高いクオリティーと
経済性

国立大学法人ならではの入学料、授業料の水準は、経済的に大きな魅力となっています。(入学料:282,000円、授業料:535,800円)また、2016年から「職業実践力育成プログラム」に設定されたことにより、専門実践教育訓練講座として指定されました。

3. 演習テーマの設定

現代社会に求められる2つの演習テーマを毎年設定します。社会的なニーズと教員のシーズを組み合わせ毎年新たな演習テーマを設定し、テーマごとに学生募集を行います。受験生は関心を持ついずれかの演習テーマを選択して受験します。

4. 演習の重視

演習テーマの下で専門領域の異なる2人の教員が2年間にわたって研究指導を行う「ワークショップ演習」「プロジェクト演習」を実施します。演習では、参加者同士がディスカッションしながら各自の研究を進め、その成果は「プロジェクト報告書」としてまとめられます。

消費者行動とマーケティング戦略
—行動科学&経済学によるデュアルアプローチ—

寺本 高 & 森田 洋

本演習では、「消費者行動」をキーワードにし、実証研究を通じて消費者の意思決定プロセスとそれにより引き起こされる消費行動を把握し、それに基づいた新しいマーケティング戦略を生み出すアイデアを得ることを目的とします。経営学・経済学で扱う意思決定のアプローチは様々ですが、本演習では、行動科学・マーケティングサイエンス的アプローチと伝統的経済学・行動経済学のアプローチの二対によるデュアルなアプローチをと

りながらマーケティング戦略への活用方向を導き出します。本演習の主な募集対象は、消費者を顧客として業務活動を行っている(いわゆるB to C)ビジネスパーソンですが、企業を顧客として活動している(B to B)方、あるいは商品・サービスが特殊な性格を持つ(例えば金融業界)方の応募も強く歓迎いたします。



→最終試験に相当するプロジェクト報告会の模様(修生が多数参加)



講義科目 | 2017~2018年度実績

リサーチ・メソッド	証券市場
確率・統計	オペレーションズ・マネジメント
組織変革	市場分析
マネジメントと社会	ビジネス・シミュレーション
エコノメトリクス	企業情報システム
戦略マネジメント	リスク管理
経営組織	企業年金
技術マネジメント	国際会計
マーケティング・マネジメント	経営史
ヒューマンリソース・マネジメント	セキュリティゼーション
グローバル・マネジメント	特殊講義 (M&A)
管理会計	特殊講義 (Global Joint MBA Intensive Program)
財務会計	特殊講義 (Shanghai Study Visit [Business and Economy in China])
サステナビリティ・マネジメント	特殊講義 (標準化とビジネス)
アカウンティング	演習
企業財務	



Brush up Program
for professional

↑横浜ビジネススクールは「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣に認定されています。